

業務用米向け多収性品種の目標収量達成に向けて 穂肥施用で葉色値を維持！

ここがポイント！！

- 1 幼穂形成期頃と出穂14日前頃に葉色値を確認する
- 2-(1) 全量基肥施肥栽培（基肥一発施肥）
葉色値が目標よりも淡い場合は追肥する
（下表を参考に基肥施用量を考慮して施用量を決定する）
- 2-(2) 分施栽培（基肥-穂肥の体系施肥）
葉色値で穂肥施用量を決定し、適期に施用する
- 3 出穂期25日後まで、飽水管理を継続する

品種ごとの穂肥施用めやす（分施栽培）

品種名	予想 出穂期	穂肥施用時期		施用窒素 成分量 (kg/10a)	目標 葉色値 (SPAD)	
ゆきん子舞	7/24	1回目 出穂 25～23日前	1回目	6/29～7/1	3～4	37～39
			2回目	7/10	2～3	36～38
つきあかり	7/23	2回目 出穂14日前	1回目	6/28～6/30	3～4	41～46
			2回目	7/9	2～3	42～46
あきだわら	8/14 ～16		1回目	7/20～7/24	3～4	36～38
			2回目	7/31～8/2	2～3	37～39

輸入尿素を用いた流し込み施肥技術の活用（低コスト技術）

輸入尿素を用いた流し込み施肥を実施することにより、施肥管理における省力化、コスト削減を図ることが可能となる。

◎メリット

- ・水田内に入ることなく追肥が可能となり、施肥作業の軽労化や、作業時間の短縮を図ることができる。
- ・降雨時でも追肥作業ができる。

◎管理のポイント

- ・処理前に水尻と暗渠を閉じ、水漏れが無い状態にする。
- ・施肥前のほ場はヒタヒタ水の状態とし、かん水の勢いで水口に設置した肥料をほ場内に均一に流し込む。
- ・かん水は、水深が+5cm程度になったら止める。

◎技術導入の留意点

- ・田面が均平で安定したかん水量を確保できるほ場で実施可能である。
- ・処理後3日程度はかん水や落水をせずに、止水とする。

メールマガジン登録募集中！

気象や生育状況に基づいた水稻栽培のポイントをお届けします。
初心者もベテランも日々の作業のお供に、ぜひ登録を！

ngt112130@pref.niigata.lg.jp

こちらからもメールできます！



※件名に「水稻情報メルマガ登録希望」、本文に「お名前」と「住所」をご記入ください